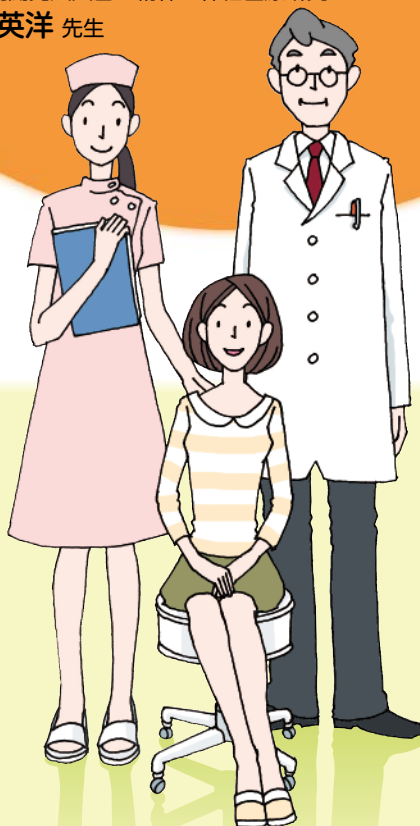


治療をはじめる前に 知っていただきたいこと

監修：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 理事長特任補佐
水澤 英洋 先生



Webサイトでは、痙縮のある患者さんに役立つ情報を紹介しています。
下記のURLもしくは二次元コードからご覧いただけます。

URL：<https://www.itb-dsc.info/>



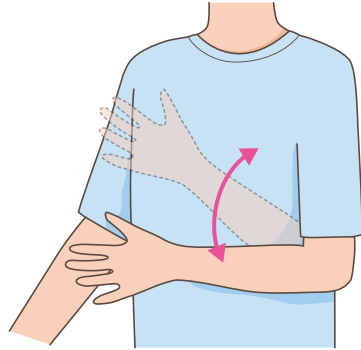
けいしゆく 『痙縮』とは？

痙縮とは、筋肉を『^{ちぢ}縮める命令』と『^{ゆる}緩める命令』のバランスが崩れて、
自分の意思とは無関係に『筋肉が縮んでしまう状態』
のこととされています。

健康な方

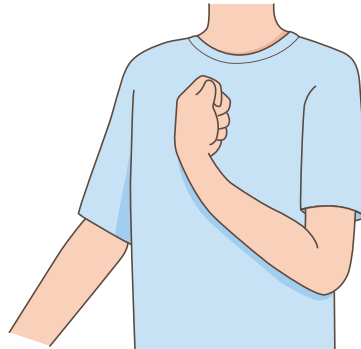
「縮める」と「緩める」の命令のバランスが取れていると、手足をスムーズに動かすことができる。

例：手の場合



痙縮の方

「筋肉を縮める命令」が強くなると、意思とは無関係に手足が縮んでスムーズに動かせなくなる。



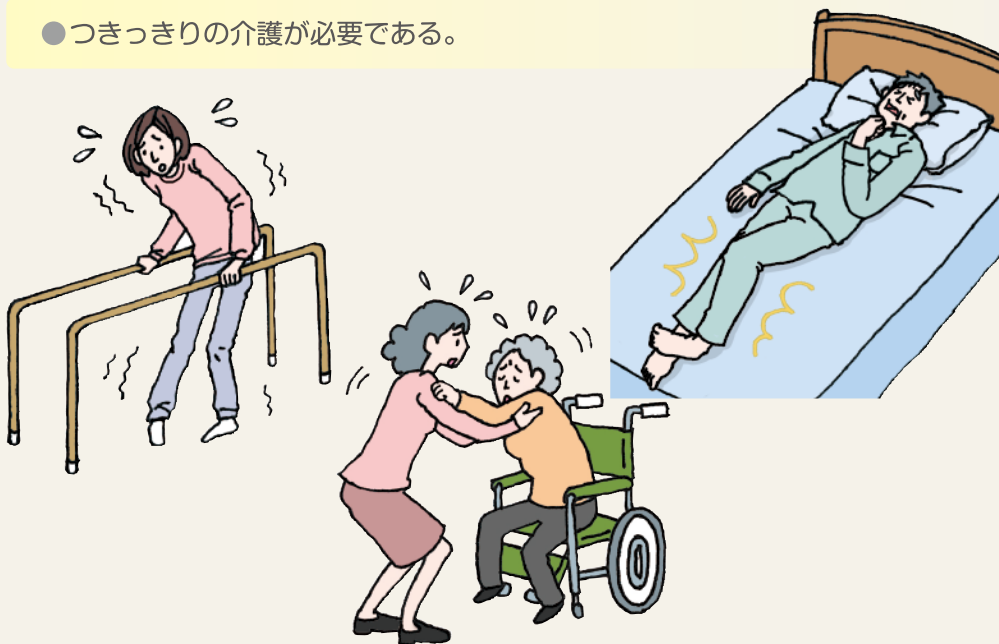
痙縮が起こる代表的な疾病

脳卒中／脳性麻痺／痙性対麻痺／脊髓小脳変性症／脊髓損傷／脳損傷／
低酸素脳症／急性脳症／多発性硬化症／視神経脊髓炎／脊髓血管障害／脊椎症 等

日常生活で困っていませんか

痙縮による症状で、
日常生活の中で困っていることはありませんか？

- 歩きにくい。
- 着替えがしにくい。
- 食事が思うようにできない。
- よく眠れない。
- 体にしめつけ感や痛みがある。
注：バクロフェン髄注療法は痙縮以外の原因による痛みには、作用しません。
- 思うようにリハビリテーションが行えない。
- つきっきりの介護が必要である。



痙縮の治療法

痙縮をやわらげる治療法には、下記のようなものがあります。

飲み薬

固くなっている筋肉をやわらかくするお薬を飲む治療法です。
症状が強い場合には、十分な効果が得られないことがあります。

ボツリヌス療法

症状が出ている部位の筋肉にボツリヌス毒素というお薬を注射して、その筋肉をやわらかくする治療法です。

外科的治療法 (手術)

痙縮の症状と関係する神経の一部を切ったり、
症状が出ている筋肉や腱を切ったり伸ばしたりすることで、
ほどよい強さに調整する治療法です。

バクロフェン 髄注療法

バクロフェンというお薬を脊髄周辺に直接入れて、
筋肉をやわらかくする治療法です。
症状にあわせてお薬が出る量や速さを調節することができます。

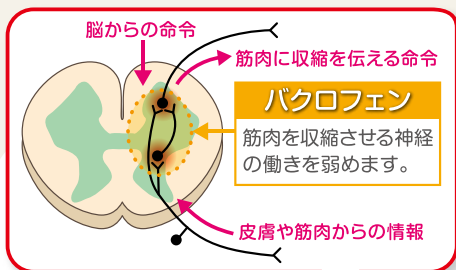
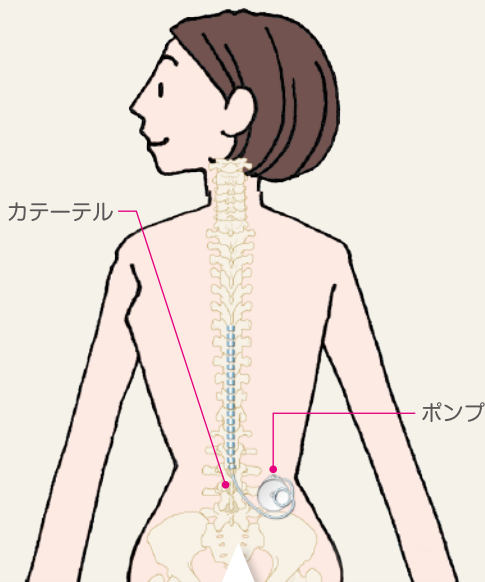
バクロフェン髄注療法とは

バクロフェン髄注療法は、『ポンプ』をお腹に入れ、『カテーテル』を介してバクロフェンというお薬を常に脊髄の近くのスペースに入れることで、痙縮の症状をやわらげる治療法です。

痙縮をやわらげることで、日常生活の活動の幅を広げたり、生活の質を高めることを目的としています。

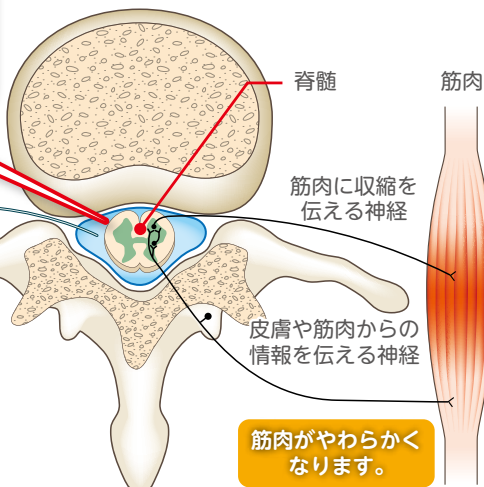
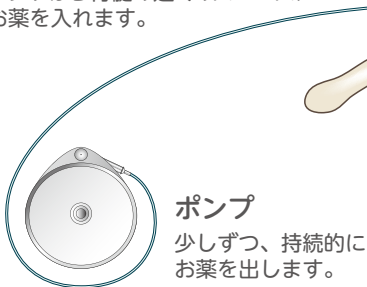
バクロフェン髄注療法は、2005年に厚生労働省の承認を受け、現在までに3,300名以上の患者さんに用いられています。2018年には、有効性・安全性が再確認されました¹⁾。

1) ギャバロン髄注 0.005%他 第一三共株式会社
再審査報告書 平成30年2月8日
(http://www.pmda.go.jp/drugs_reexam/2018/P20180406001/430574000_21700AMY00174_A100_1.pdf)



カテーテル

ポンプから脊髄の近くのスペースにお薬を入れます。



治療の流れ

①効果の確認

バクロフェンの効果があるかどうかの確認を行います。

効果の確認（スクリーニング）

- 1 腰から脊髄の周辺にバクロフェンを注射します。



- 2 お薬の効果を確認し、症状が改善されるかどうかを確認します。患者さんの希望でスクリーニングまでで治療をやめることもできます。



※1～2日間入院して行います。

効果があった

効果がなかった

他の治療法を検討します。

症状の改善具合、患者さん・ご家族の効果に対する満足度などを総合的に考えて、継続的な治療を希望される場合は、ポンプ、カテーテルの植込み手術を行います。定期的にお薬の補充や量、速さの調節を行います。

②手術

治療を継続される場合には、
ポンプをお腹に入れる手術を行います。

ポンプをお腹に入れる手術

ポンプをお腹の皮膚の下に入れます。
ポンプからカテーテルを皮膚の下を通して、
背中の脊髄の近くまで届けます。
入院期間は1～2週間です。

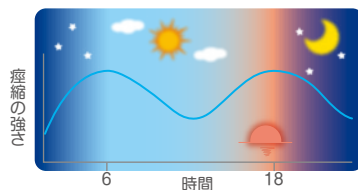


効果を確認します。

手術の直後は、効果が強くすぎたり、弱くなりすぎたりすることがありますが、
お薬の量を調節することで適切な効果があらわれるようになります。

ポンプをお腹に入れた後について

- 生活リズムや症状にあわせて、
時間や曜日単位でお薬の量を
調節することができます。



- 3ヵ月以内に1回の頻度でお薬を補充します。

お腹の上からポンプに注射して、お薬を補充します。

- 約5～7年に1回はポンプを交換します。

約5～7年でポンプを動かす電池が切れます。電池が切れそうな時期になりましたら、手術により新しいポンプと交換します。

※バクロフェン髄注療法は、いつでも中断・中止することができます。
中断・中止した場合は、治療前の状態に戻ります。

日常生活について

ポンプをお腹に入れた後も、これまでと変わらない生活を送ることができます。

ポンプを お腹に入れた後の生活

これまで通り、食事、入浴は制限なく行うことができます。

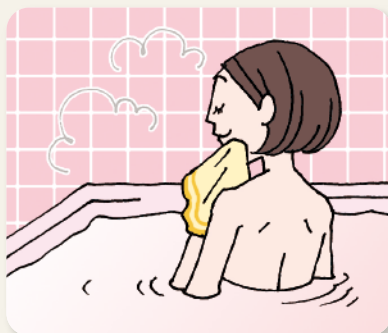
適度な運動・リハビリを継続することが重要です。

〈 注意点 〉

MRI検査はできますが、撮影後の注意が必要なので、事前に担当医師にご相談ください。

日常生活で使う家電製品や携帯電話は、ポンプに影響を与えることはありません。空港の金属探知機や、ショッピングセンターなどに設置された盗難防止装置に近付くと、それらの装置が反応してしまうことがあるので、体内にポンプがあることを示す「患者手帳」や「緊急連絡カード」を携帯するようにしてください。

※普段と異なる症状があらわれたら、
すぐに担当医師に連絡して
適切な処置を受けてください。



第一三共株式会社

Medtronic